

## 平成27年度第1回平塚市母子保健事業推進連絡会 会議録

日 時 平成27年11月26日(木)午後1時30分から15時00分まで

会 場 保健センター3階 会議室3

出席者 参加者：中村千里氏、佐々木明彦氏、小清水勉氏

事務局：宮川課長、岡田課長代理、松本主管、木原主査、  
三浦主査、古畑主査、小山主査

### 1 開会 平塚市健康課長挨拶

### 2 議題

#### (1) 平成26年度事業実施結果報告について

事務局：平成27年度事業実施結果報告(資料1-1、1-2、1-3、1-4)について

訂正 2ページ こんにちは赤ちゃん訪問(未熟児含む)再掲 (未熟児含む)再掲を削除

3ページ 1歳6か月児健診フォロー教室の実施人数

26年度 1152人 1117人

3歳児健診フォロー教室の実施人数

26年度 495人 485人

母子保健事業については例年通り実施。

子どもの生活習慣病予防対策事業は、関係職種の研修会を実施。5歳児生活実態調査と隔年で実施している。

こんにちは赤ちゃん訪問は、資料1-1にある93.3%で年度の報告を行っている。資料1-2では、生年月日に対する訪問数を掲載。訪問率94.8%とは未熟児を含む数となっている。

未訪問の内訳では、長期里帰り等で訪問不可のケースが増加している傾向。

27年度は「拒否の理由」について集計をしている。

乳幼児健診、歯科健診については大きな変化なし。

予防接種については3種混合ワクチンから4種混合ワクチンに変更したため、26年度は接種人数が増加している。

乳児健診、および幼児健診の未受診者訪問については問題ありの場合、市でフォローしている者がほとんど。状況の確認ができない場合は、以前は次回健診がある時はそこで確認していたが、現在は未受診訪問で状況が確認できない時はその都度こども家庭課と連携をとり、育児状況・医療受診等の状況確認をして対処している。

参加者：3歳児健診での尿検査の結果についてはどうなっているのか。

事務局：母子保健報告で報告している。

参加者：現在の予防接種は、接種開始時期が早くなっており、乳児健診を受診する際に接種勧奨するのでは遅い。定期接種だけでなく、任意の予防接種のメリット、デメリットを理解してもらうことが必要と思う。保護者に知ってもらう機会がほしい。

参加者：出産して退院した時や1か月児健診の際に情報提供をしているが、漏れがないように周知することが必要。

事務局：出生届の提出の際に予防接種インフォメーションを配布しており、こんにちは赤ちゃん訪問では対面で接種状況の確認と情報提供をしている。その他、未受診訪問等の際にも個別で対応している。

任意接種については、定期接種と違い、積極的に勧めることは難しい。かかりつけ医に相談して勧めていくようにと促している。

参加者：平塚は積極的に接種している方が多い印象。B型肝炎予防接種も浸透していない地域もある。任意接種であっても、今接種するのと、半年後接種する違いやメリットを理解してほしい。

事務局：予防接種の情報については、小児科医から情報をいただいております、メリットだけでなくリスク等も考え、実施に向けて検討するべきものと思う。しかし、現状としては次々と定期接種となり、それに対応するのに精一杯な状況。情報をどのように整理していくかは検討していきたい。

## (2) 乳幼児健康診査票の変更について(資料2)

事務局：国から「乳幼児に対する健康診査の実施について一部改定について」の通知があり、現在健診票の変更を検討している。予防接種法の改正や平成27年度から開始した健やか親子21(第2次)に掲げる指標に対応した問診項目の追加等を踏まえ修正している。平成28年度から変更する予定。健診票等、案ができ次第医師会、歯科医師会と調整させていただきたい。

参加者：追加の問診項目はダイレクトな表現が多く、関係団体からはクレームがでていると聞く。

事務局：クレームがでていることは耳にしているが、内容の変更はしないようにと国から通知があり、それ以降の動きはない。

参加者：デリケートな質問が多く、聞く側、聞かれる側どちらもその後の展開がマイナスにならないかと危惧される。

事務局：問診で聞きとった内容を基に虐待の観点からどのようにフォローしていくか、連携方法をこども家庭課と検討している。健診票には国からの調査依頼ということ明記し、誤解がないようにしたいと考えている。

(3) その他

事務局： 平塚市母子保健計画進捗状況管理について

「平塚市子ども・子育て支援計画」が平成27年度から平成31年度までの5か年計画で今年度策定され、その中に平塚市母子保健計画も位置づけられている。

平塚市子ども・子育て支援計画の進行管理は「子育て支援事業推進部会」において各事業の進捗状況を把握・評価し、その結果を年1回市民に公表するとされているので、その中で平塚市母子保健計画も進捗状況の管理がなされる。健康課では全体の進行管理とは別に母子保健計画の進行管理として半年に1回、各事業の進捗状況の確認や評価を行う。

次年度の新規事業等予定について

新規で7か月児相談を実施する予定。こんにちは赤ちゃん訪問後、1歳6か月児健診までの間に教室等以外で保護者に会う機会がない現状。1歳6か月児健診では保護者が児との関わりの中でスマホに子守りをさせる等の影響が以前より発語が少なく絵カードの認識ができない等の幼児が増えているように感じる。そのため、7か月児相談で母子の関わり方や発達を促す遊び等の情報提供を行うことを考えている。気になるケースは、医療機関での8～10か月児健診につなげていきたいと考えている。平成28年度からすくすく子育て教室は廃止の予定。

乳幼児揺さぶられ症候群予防のために

平塚児童相談所、平塚保健福祉事務所、こども家庭課、健康課で虐待予防のための会議を年3回実施している。会議の場でも「乳幼児揺さぶられ症候群の予防について」を広く周知してほしいと話がでている。健康課では、母親父親教室、こんにちは赤ちゃん訪問で情報提供しているが、医療機関と協力し、情報を共有できるとよいと思っている。

参加者：女性は母親父親学級等で情報を得る機会があるが、男性は知る機会が少ない。

乳児は高い所から落とすより、揺さぶる方が脳にダメージを与える。泣き止まないとだんだんエスカレートすることもあるため、男性側にも理解してもらうことが必要。また、医院側も情報提供する機会が必要であると考え。

参加者：11月はSIDS月間であるが、平塚市はなにか取り組みを行っているのか。

事務局：強化月間としての取り組みは行っていないが、通年、母子健康手帳の交付時に厚生労働省が作成したリーフレットの配布を行い、啓発している。

事務局：「乳幼児揺さぶられ症候群」については、パートナーと同居しているようなケースの場合、男性は子どもとの関わり方がわからないようである。健康課では、こんにちは赤ちゃん訪問で母子に早く関わり情報を得ることができてい

る。平塚児童相談所もでき、その他関係機関と情報交換のネットワークができています。その中で揺さぶられ症候群等の情報提供はできるため連携をとっていきたいと考えています。また、本市内に児童自立支援拠点が整備されることがほぼ決定している。医療機関等も含め連携をとっていきたい。

事務局： 連絡会の開催時期について

連絡会の開催は、第1回目を11月、第2回目を3月としてきたが、来年度から第1回目を7月頃としたいがどうか。

参加者：特に問題ない。

参加者：小児歯科の立場から

歯科医師会に入会しない歯科医師が増加しており、専門医（口腔外科、小児歯科等）との連携がとりにくくなっている。レセプトの一人当たりの点数が高くならないように適切な処置をせず、そのままにしているケースも少なくない。以前に比べ、重症化して来院するケースや歯科医院に受診していても重症化している患者が増えている。医師会、歯科医師会、行政と連携をとり行う事業の他にも非会員との連携も考えていかなければいけないかと思う。

### 3 閉会

以 上